

学校段階間の連携・接続等に 関する作業部会報告資料

名古屋大学教育学部附属中・高等学校
中学校副校長 山田 孝
全国中高一貫教育研究会 事務局

平成23年3月3日

名古屋大学教育学部附属 中・高等学校の概要

平成12年度より 併設型中高一貫校となる

生徒数	中学校	各学年2クラス	3学年	6クラス	240名
	高等学校	各学年3クラス	3学年	9クラス	360名
			合計	15クラス	600名

教員数 校長1名 教員 38名

- 完成教育を重視する中等教育
- 男女共学
- 名古屋大学キャンパス内
- 生徒の自由な学び
- 個性の伸張
- 小規模校



併設型中高一貫 6 年発達区分とその構造

段	中 高 6 年 の 教 育 課 程 の 観 点	
	教科・道徳・特別活動を中心とした 中高一貫カリキュラム	総合人間科カリキュラムと ソーシャルスキルカリキュラム
入 門 基 礎 期	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 個を知る 集団と個 ○ 学力の基礎、生活の基盤づくり 時間をかけじっくり学ぶ 学び方の基礎、生活の基礎 ○ 集団の自治・自律の基礎 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 心と身体をみつめる 人間関係の基礎基本 ○ [生き方を探る] 身近な出会いのフィールドワーク
個 性 探 求 期	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 個を探す ○ 自立と協同の学び 系統学習と参加型学習 動機づけとしての選択学習 ○ 自治能力の育成 集団の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 心と身体の変化を知る 人間関係の充実 共生、異質な他者 ○ [生き方に学ぶ] フィールドワークの拡大
専 門 基 礎 期	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 個性を磨き合い、個を伸ばす ○ 自立的学習・生活の形成 専門的な学びの意義と選択学習 人生を選択する力の育成 ○ 自治能力の発展 社会への参与 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 心と身体を学問的に学ぶ 心の痛み、共感 コミュニケーション能力の社会化 ○ [生き方を総合する] フィールドワークの深化
個 性 伸 長 期	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 個の確立・発展と社会的自立 社会・人生への展望 ○ 自学、自習へ 自らのカリキュラム編成 ○ 総合的行動力と実践力 社会への発言 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 心と身体の見つめ直し 自分の人生と将来を考える 自分を客観的にとらえる ○ [生き方を選択する] 生き方とつなぐフィールドワーク

「心身発達の差異の大きい生徒を対象としていることに伴う課題」「生徒の人間関係の固定化に対する対応」について

併設型中高一貫校の課題と実践

1. 併設型中高一貫校の課題

附属中学からの内進生と高校からの入学生との融合課題
内進生になじめず等 中高一貫教育検証アンケートより

2. 本校の生徒融合のカリキュラム

融合カリキュラムの実施

総合人間科

SLP の実施

総合人間科では、附属中学生が 研究方法について高校からの入学者にアドバイス

3. 入学以前からの仲間作り

新入学生の事前説明会で、高校1年生に融合プログラムを実施。入学以前から融合のための取り組みを行う。

4. 中高一貫・異年齢集団をつくる取り組み (本校の取り組みを中心に)

学校行事

学校祭でのチーム作り

体育祭で中学生と高校生の混合チームを作って対戦

生き方チーム 中1 と 高3

環境チーム 中2 と 高1

平和チーム 中3 と 高2

生徒会の活動 三者フォーラム、三者協議会

部活動の取り組み 水泳部、卓球部、美術部、ブラスバンド部等における中高合同での部活動

中高合同朝礼の実施

総合人間科 高校3年生が 中学1年生の総合人間科に参加
高校生が中学生に「生き方」を語る

体育祭で中学生と高校生が助け合う



三者協議会で中学生と高校生が話し合い



校舎改修についての話し合い

総合人間科の授業

高校3年生が中学1年生に進路を語る



総合人間科の授業

高校3年生が中学1年生に進路を語る



中高一貫校のメリットとデメリット

中高一貫教育検証アンケートより

メリット

- 6年間の発達成長を見通すことができる
- 系統的な指導ができる
- 異年齢交流ができる
- 上級生になるほど下級生の面倒をよく見る 等

デメリット

- 人間関係の修復が困難な場合もある
- 「なかだるみ」 等

「教職員の負担への対応策」

1. 多忙化の背景

- **保護者の教育要求の高まり**
きめ細かい指導が求められている
- **スクール・コンプライアンス**
ミスの許されない環境 安全安心な学校作り
- **社会的要求**
学校評価 自己評価・外部評価の実施
- **人員(事務職員)の削減**
- **生徒層の変化**
生徒の変化に対応した多様な指導
- **異年齢集団に配慮したカリキュラム作り**
- **中高における幅広い知識が必要 そこからくる負担**
中高一貫教育検証アンケートより

2. 対応として考えられること

- 省力化 仕事の再編
- IT化 仕事の効率化
- 人員の配置(加配)
- 予算増額 中高一貫教育検証アンケートより
- 保護者の協力(本校の場合)
 - 学校行事等に積極的に参加
 - 生徒の企画に講師として参加
 - バザー等の実施運営
 - 親父の会による安全パトロール
 - PTA研修会の運営
 - 三者協議会の運営に参加
 - 広報活動の推進

PTAと創る学校行事



PTAの広報活動

第2回 PTA研修会 ～第一分科会～

「脳をリラックスさせて集中力を上げよう！」

～生徒のための朝食とおやつ～ 講師 原 順子先生（本校家庭科教員）



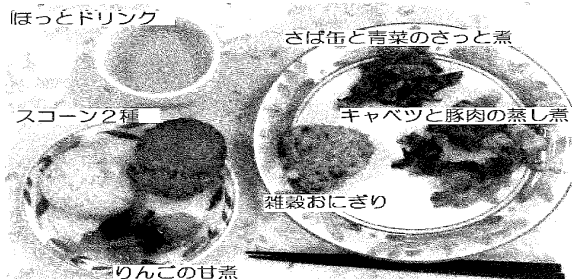
何を食べたかより、どんな雰囲気食べたかが大切！

『脳に良くて集中力がついて・・・』家庭科の原先生が、何やら専門的なムスカシイ料理を教えてくださいませんかとお聞きしたら、「子どものころ毎日何を食べていたかなんて実はあんまり覚えていないものなんですね。そんなことより、どんな雰囲気食べたかということが記憶に残っていくんです」というメッセージを頂き、楽しい気持ちで研修会が始まりました。『考え抜いたメニューを時間をかけて調理して、食べる頃には親はくたびれ果てていた』というのでは、肝心の食事の時間が楽しくない。ただでさえ思春期の子どもはムスカシイのだから、親の方も気楽な気持ちで取り組む方が食事が楽しい。『思春期の子どもは心が固めないなら、胃袋を掴もう』ということで、早速簡単でおいしい料理作りに取り掛かりました。

ササッとつくって美味しいメニュー

さっそく9つの班に分かれて、班ごとに担当メニューを作り、全メニュー試食しました。この日のメニューは・・・

さば缶と野菜のさっと煮
キャベツと豚肉の蒸し煮
ちりめんじゃこの雑穀おにぎり
ほっとドリンク
スコーン2種（プレーン・抹茶とホワイトチョコ）
りんごの甘煮



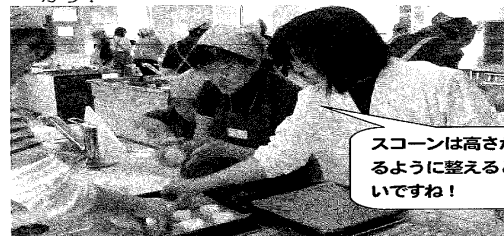
この中から『キャベツと豚肉の蒸し煮』をご紹介します。夜に作って翌朝の朝食にしたり、忙しい時の夕食用に作り置きできる、便利レシピです。原先生のお宅でもよく登場する人気メニュー！

《材料》 4人分

キャベツ	2分の1玉（700～800g）
豚肩ロース塊	250g
塩・コショウ・油	少々
小麦粉	適量
スライスベーコン	100g
バター	10g
固形スープの素	1個
ローリエ	1枚（あればナツメグ、ガラムマサラ少量）

《作り方》

- ① キャベツはざく切り（手でちぎっても良い）。ベーコンを1cm幅に切る。
- ② 豚肉は適当な大きさの棒状に切る。
- ③ ②に塩・こしょうをして小麦粉をまぶす。
- ④ 厚手の鍋に油少々とバターを入れて熱し、③の豚肉を焼く。ベーコンも入れる。
- ⑤ 豚肉4面に焼き色が付いたらキャベツを入れる。キャベツは初めかさが多いので、砕いた固形スープやナツメグ、ガラムマサラは2～3回に分けて入れる。
- ⑥ ローリエを乗せふたをして弱火で30分蒸す。
- ⑦ 途中で鍋の中の上下を変える。30分だったら出来上がり！



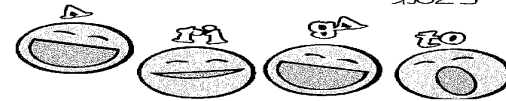
スコーンは高さが出るように整えると良いですね！

最後に集中力を上げる食材をご紹介します。

★シト랄ル・・・オレンジやレモン、ミカン等に含まれています。その香がリラックスさせたりリフレッシュしたりする効果があり、集中力を取り戻すのにも役立つと考えられています。暖かいレモネードやモンテレーがおすすめ！

★DHA・・・青魚に含まれている脂肪酸で「脳の栄養素」とも言われています。神経の伝達をよくする働きがあり、脳を活性化し集中力を向上させるのに効果的！脂質分を落とさないようにして食べるのが効果的なので、刺身・煮魚にするのがよいでしょう。

PTA活動へのお誘い!



「チャレンジ! 成長! それが、役員」・・・役員 木全浪江 (名大附PTA 8年目)

役員と聞くと「まあ、大変」と考える保護者の方が多いと思います。しかし、名大附は違いますよ。子どもたちのよりよい学校生活に何か協力しようという意志があれば、そして、1年間の中で、少しでも自分のために時間を使うことができれば、誰でも役員を務めることができます。「自分はどんな形で役員として参加しようか?」と考えてみてください。保護者として、ひとりの人間として成長できる経験を得られ、子どもたちの笑顔の為に、少しでも貢献できることは、とても意義のあることだと思いませんか?きっと様々な人の協力で、あなたも、役員として素敵な1年をすごすことができます。

「企画から関わることで得る喜び」・・・研修委員長 小野祐子

研修委員会では、春と秋の年2回、研修会を開催します。研修委員会としての活動は、研修会の内容と講師の決定、参加者の募集、講師との打ち合わせ、そして、当日の裏方等です。これらの活動を通して、仲間との楽しい時間を過ごすことができます。今年は過去数年間実施していましたシンポジウム形式の分科会から、参加型の分科会に変えるという試みを行っていましたが、参加者の皆さんから「楽しかった」「今回のような内容を、またやってほしい」というお声を頂けました。研修会を企画・実施できることとPTAで良い仲間を得られることが、研修委員を務める楽しさだと思います。

「名大附PTAの温かさを実感」・・・ボランティア委員長 谷澤恵子

ボランティア委員の活動は、保護者の方々の「温かい心」を形にすることです。光粒祭の活動がメインですが、図書整理の依頼に応じることもあります。ボランティアの募集を行い、調整し、作業内容をお知らせします。これらの活動は皆さんに支えられています。調整や当日の作業がスムーズに行えるのは、多くの方が積極的に参加して下さるからです。この一年、名大附の保護者の方ってすごい!と何度も思いました。学年の違う委員さんと作業するのも楽しかったです。来年度、「温かい心」を感じながら、楽しい時を過ごしてみませんか。

「名大附の魅力を直に感じる取材の楽しさ」・・・広報委員長 松田京子

広報委員の仕事は、年に2、3回広報誌「なかまたち」を発行することです。光粒祭をはじめPTA研修会、三者協議会等の行事の取材もします。取材を通して、名大附の良さを再発見できることがなんといっても最大の魅力です。PTAの仕事の中では、学校での活動日数かやや多めではありますが、メールで原稿や画像のやり取りをすることで、自宅のPCでも広報誌作りは可能です。取材や原稿依頼をする中で、先生方や他の役員さん達との交流が多いことも楽しみの一つです。写真撮影が好きの方、名大附の魅力を伝えたい方、原稿作りの経験や関心のある方、ぜひご参加頂きたいと思います。

「皆様ご感謝の1年!」・・・PTA会長 氏家雄三

役員・常任委員・学級委員のみなさんの活躍ぶりに驚き、ひたすら感謝しているうちに一年が過ぎたというのが正直な思いです。また、先生方もまさにPTAのTとして深く関わって下さり、そして多くの保護者の皆様から光粒祭を中心にお力を頂き、名大附PTAの「人と人のつながりからくるパワー」の凄さを感じております。私まといえ、思うように参加することができないシーンもあり、「声の大きなお父さん」としての参加がメインだったように思い、皆様のお陰で今日まで務めを果たすことができたと感謝の気持ちでいっぱいです。また、来年度新しく参加して下さる方を心よりお待ちしております!